



日本の世界一、 秋田の日本一

[秋田市観光クチコミ大使]
(株)NHKグローバルメディアサービス
エグゼクティブ・プロデューサー

わく い りょう すけ
涌井良介氏

危機の中の日本、そして秋田

この原稿を書いている時に秋田竿燈まつり開催中止のニュース。そして緊急事態宣言が全国に出されました。出口は見えていませんが、本来、日本は世界一、安心、安全な国。各地を取材で訪れた中で、これほど衛生的で治安が良い国はそうありません。しかし、日本では当たり前のことになっていたために、危機管理が甘くなってしまったと感じます。

一方で経済、福祉、教育などの危機。日本が直面している課題でありながら、これまで対策が不十分だったことにも原因があるのではないのでしょうか。こうした課題に秋田は長い目で向き合い、教育や医療などでは日本一優れた成果をあげているものが少なくありません。東京のスーパーからは一時、米までが消えましたが、秋田は食料自給率トップクラス。安心して暮らせる強みがあります。

今こそが変化の時

日本は転換点を迎えています。避けなければならない「密」は、一極集中の弊害。地方ではそんなリスクが少ないことに、多くの人に気づいてほしいものです。そしてテレワークは、秋田が抱えている距離というハンデを克服できる変化となりました。インバウンド客の激減はダメージですが、人気の地域への集中でなく、各地に足を運んでもらうような戦略に変えてはどうでしょうか。秋田の持つ適度な距離間や空間は、東京や関西にはない魅力です。自動車に抜かれると冷やかされる秋田新幹線、いやいや日本一景色が楽しめる新幹線だと自慢しましょう。

秋田から日本を元気に

日本全体が「崩壊」しないために、集中から分散へ、画一的ではなく多様な力を地方が発揮することで日本を元気にする時ではないでしょうか。時には人やモノの流れを逆転させる発想があって良いと思います。かつては日本海側が交易の幹線、秋田城の歴史は京都にも負けていません。

こうした中で、秋田の発信力が弱いことは、まだまだ課題だと思います。私たち“よそ者”こそが、外からの視点も交えて、秋田の力を発信する役割を果たさなければなりません。秋田にいた3年間、様々な番組で秋田を日本に、世界に発信してきました。最近ではテレビを離れて、ターミナルや航空機、列車内のメディアなどに、秋田の魅力を伝えるコンテンツを潜り込ませています。朝の連続ドラマの誘致はまだ実現できていませんが、ハリウッドやカンヌで竿燈や曳山が登場する作品が世界の注目を集める日が来る、そんな夢も抱えています。

今は耐える時ですが、秋田でいただいたつながりをこれからも生かして、これまで同様に秋田を、秋田と様々なものをつなぐ務めを果たし、秋田の熱を日本に、そして秋田に熱を呼び込む、そんな形を創っていきたくと思います。

■略歴

1960年、東京都生まれ。1984年に日本放送協会(NHK)入局。

ディレクターとしてニュース、ドキュメンタリーを制作し、中国返還前後の香港特派員など世界数十か国を取材。BS、ハイビジョン、デジタル放送など新しいチャンネルやメディアの立ち上げにプロデューサーとして数多く携わる。

2015年から2018年までNHK秋田放送局局長